

# 災害の発生に備えて

## ～大切なペットの命を守るために～

大規模な災害が発生した時、ペットを連れて避難したいと思うのは、ペットを大切に思う飼い主の自然な気持ちです。しかし、ペットと一緒に避難するためには、災害に対する普段からの備えも必要になります。

### 1. 万一災害が発生したら

#### (1) 大切なペットと同行避難!

自分の身の安全を確保した後は、同じように不安に感じているペットの身の安全を確保しましょう。飼い主と一緒に避難することは、最も確実にペットの身の安全を確保する方法の一つです。

このためには、普段からキャリーバッグなどにペットを慣らしておき、速やかにペットを保護できるよう準備しておく必要があります。また、ペットフード、ペット用常備薬、リードなどのペット用品も、すぐに持ち出せるように準備しておくことが大切です。

#### (2) 避難場所での留意事項

災害時には、避難場所での集団生活となることもあります。避難された方の中には、動物の苦手な人やアレルギーなどで動物と一緒にいられない人もいます。鳴き声やにおい、抜け毛等で回りに迷惑をかけないように飼い主同士が協力する等、動物を飼育していない人に配慮した生活のルール作りが必要となります。

また、慣れない環境でストレスを感じている動物を健康に管理するために、動物の排泄場所を決めて排泄物は速やかに処理する等、普段以上に動物の体調に気を配ることも大切です。

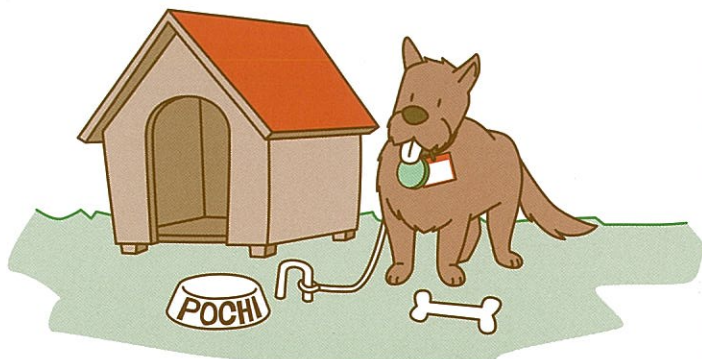


### 2. 災害の発生に備えて

対策  
1

#### 犬を放さないこと。

夜間、早朝などであっても犬を放してはいけません。散歩の時も引き綱をしっかりとつけましょう。普段から犬をしっかりとつないでおくことは、平常時には人への危害防止対策となるだけでなく、災害時には犬が行方不明になることを防ぎます。

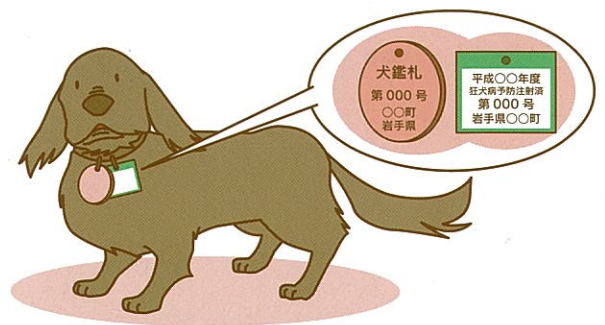


対策  
2

#### 必要なワクチン接種を行い健康に管理すること。

犬を登録し、狂犬病予防接種を行うことは飼い主の責務です。登録・注射後に公布される、鑑札と狂犬病予防注射済票は必ず犬に装着しておきましょう。

また、災害時に避難所等で病気がまん延しないように、普段から必要なワクチン接種を行う等、動物の健康管理をしっかりと行うことが大切です。

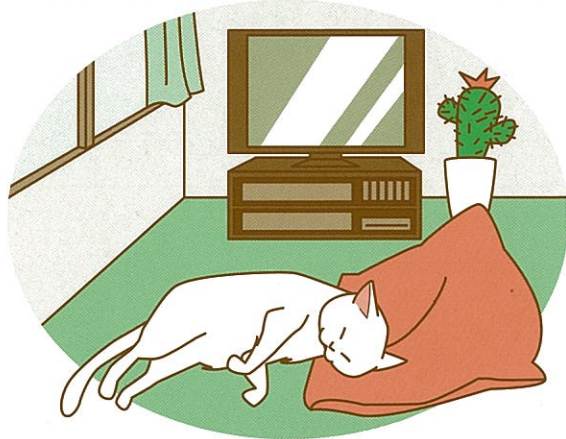






### 対策3 猫は普段から屋内で飼うこと。

猫を放し飼いにすると飼い主と一緒に避難することが難しくなります。また、ご近所の庭を荒らしたり、車を傷つけたりと、結果的に近所の人たちに迷惑をかけることにもなります。猫は屋内で飼うようにしましょう。



### 対策5 基本的なしつけを身につけさせておくこと。

災害発生時には、集団避難が必要な場合もあり、ペットも避難場所での集団生活となる場合があります。

噛み癖など、問題行動のある犬などは集団生活には適しませんし、人に危害を加えることもあるかもしれません。普段からペットに基本的なしつけや社会性を身につけさせておくことが大切です。



### 対策4 飼い主がわかるように迷子札などを付けておくこと。

災害発生時にペットが行方不明になってしまった場合、迷子札などに所有者がしっかり明示されていなければ、飼い主のもとへ帰ることが難しくなります。

最近では、迷子札だけでなく小さなマイクロチップを装着する飼い主も増えています。マイクロチップは一度体内に埋め込むと脱落することはほとんどなく、災害時には特に大きな効果を発揮するとされています。



### 対策6 不妊・去勢手術を実施しておくこと。

避難場所における不必要な繁殖や交尾行動に伴う感染症のひろがりを防止するためにも、不妊・去勢手術を実施しておくことが大切です。不妊・去勢手術は、無駄吠えなどの問題行動の抑制にも非常に効果的です。



## 3. 岩手県の災害対策

岩手県では「地域防災計画」に、ペットの救護対策を規定しているほか、一般社団法人岩手県獣医師会や県内の動物愛護団体等と災害時の動物救護活動に関する協定を締結しています。東日本大震災においても、この協定に基づいた動物救護活動が行われました。

# 災害時にペットの命を守るためには、 目ごろからの準備が大切です

岩手県環境生活部・保健所・広域振興局